

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

5月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 5月の報告数は206件（前月比0.8、前年同月比0.3）で、減少傾向が続いています。阿蘇、天草地区からの報告が多いようです。

小児科定点

（全体傾向）

報告数4,364件（前月比1.58、前年同月比1.07）でした。インフルエンザの動向を反映して1月をピークに減少傾向が続いていましたが、今月は増加に転じました。主に感染性胃腸炎、次いで手足口病、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱など夏期に流行する感染症の増加によるものであり、今後の動向に注意が必要です。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数37件（前月比0.6、前年同月比3.7）でした。5月は前月同様に減少傾向にありますが、前年同月よりも多い報告は続いています。0歳から1歳が9割を占めています。水俣地区からの報告が多いようです。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数111件（前月比1.8、前年同月比1.0）で、増加に転じました。前月と同じく1歳児が多いようです。熊本、有明、宇城地区からの報告が多く、菊池、八代地区が続きます。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数412件（前月比1.6、前年同月比0.6）でした。例年同様に5月は増加に転じました。4歳から7歳を中心とした幅広い年齢層から報告があります。宇城、菊池地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数2,143件（前月比1.5、前年同月比1.5）でした。昨年の11月から小幅な変動で推移していましたが、5月は大きく増加しました。過去2年に比べて1ヶ月早い立ち上がりです。県全体の定点あたり平均報告数は42.9で、菊池地区（100.2）からの報告が目立ちます。
5. 水痘 : 報告数94件（前月比2.5、前年同月比1.4）でした。昨年4月から大きな変動はありませんでしたが、5月は大きく増加しました。水俣、菊池地区からの報告が多いようで、前月に目立っていた八代と宇城での発生も続いています。定期接種対象年齢であったはずの3歳～6歳の報告件数も多いようです。1歳を迎えたらできるだけ早く予防接種を受け、2回接種が必要であることの再度の啓発が必要と思われるかもしれません。
6. 手足口病 : 報告数835件（前月比3.2、前年同月比2.2）でした。4月から連続して増加しています。1～2歳児を中心に乳幼児例が多いようです。菊池地区からの報告が目立ちます。
7. 伝染性紅斑 : 報告数7件（前月比1.2、前年同月比0.5）でした。昨年春から一桁の少数報告が続いています。今月は菊池、熊本地区からの報告のみでした。
8. 突発性発疹 : 報告数239件（前月比1.5、前年同月比1.7）でした。例年初夏に小さなピークを迎えますが、今年は少し早めの立ち上がりでした。6ヶ月から1歳に集中して発生しています。菊池地区からの報告が多いようです。
9. ヘルパンギーナ : 報告数52件（前月比1.4、前年同月比0.5）でした。1月以降微増傾向は続いています。未だ二桁の少数レベルです。前月同様に天草地区からの報告が多いようです。

10. 流行性耳下腺炎 : 報告数18件(前月比0.9、前年同月比0.2)でした。報告数の少ない状況が続いています。その中で有明、菊池地区からの報告が多いようです。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数92件(前月比3.1、前年同月比2.1)と急増しており今後注意が必要です。全国的にも増加しています。熊本59件、菊池1件、有明31件、天草1件と有明地区からの報告が目立ちます。年齢的には20~45歳にピークがありますが、70歳以上にも多発しており、1、2歳の幼児層にも散発しています。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数46件(前月比1.0、前年比0.8)で、前月比は同数で、前年比は減少しています。男女別は、男性23件、女性23件でした。年齢別は、男性は15~69歳、女性は15~39歳に見られます。地域別は、熊本が29件、次いで御船6件、八代4件、菊池、有明、宇城各2件、人吉1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数19件(前月比1.3、前年比0.8)で前月比は増加し、前年比は減少しています。男女別は、男性9件、女性10件で、女性に多く見られます。年齢別は、男は15~69歳、女性は25歳~70歳以上に見られます。地域別は、熊本11件、次いで菊池5件、八代、有明、宇城各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数4件(前月比0.7、前年比0.6)で、前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性2件、女性2件でした。年齢別は、男性は25歳~34歳に見られ、女性は40~70歳以上に見られます。地域別は熊本3件、次いで八代1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数9件(前月比0.5、前年比0.3)で、前月比、前年比共に減少しています。男女別は、全例男性でした。年齢別は15~44歳に見られました、地域別は、熊本が6件、次いで八代2件、宇城1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :
報告数は24件(前月比:1.2、前年同月比:1.0、男女比:15/9)で増加傾向にあります。熊本地区(9)、阿蘇地区(6)、八代地区(2)、人吉地区(2)、有明地区(5)と広範囲に認めます。1-4歳(1)もありますが、比較的全年齢で散見され、70歳以上(15)をピークに60歳以上で集中して検出されました。▼H29では以後減少傾向にありました。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :
報告数は6件(前月比:1.5、前年同月比:0.9、男女比:3/3)で増加傾向にあります。熊本地区(2)、有明地区(4)の報告でした。1-4歳(1)と70歳以上(5)でした。▼H29では以後減少傾向にありました。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-、男女比：-）でした。▼H30.4月(1)以降、報告はありません。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。▼H29でも5月以後減少し、以後散見する程度となっていました。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。▼H28、H29に比べて非常に少ない傾向となっています。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数は1件（前月比：-、前年同月比：0.5）で例年に比べて少ない傾向にあります。八代地区(1)からの報告で30-34歳(1)でした。▼H28では以後急増、H29では10件までの範囲で継続して報告されました。
4. クラミジア肺炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で引き続き、報告はありませんでした。▼H29には報告はありませんでした。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数は9件（前月比：0.7、前年同月比：0.4）で例年並みややや少なめでした。熊本地区(7)、人吉地区(1)、有明地区(1)の報告でした。0歳(1)、1-4歳(6)、5-9歳(2)でした。▼H28、H29に同様減少に転じ、比較的少なめの報告数で推移しています。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした。	
2類感染症	： 結核	29件
3類感染症	： ありませんでした。	
4類感染症	： A型肝炎	1件
	重症熱性血小板減少症候群	1件
	レジオネラ症	6件
5類感染症	： アメーバ赤痢	1件
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	4件
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
	後天性免疫不全症候群	2件
	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
	水痘（入院例）	1件
	梅毒	12件
	百日咳	3件